



1 適正な水管理

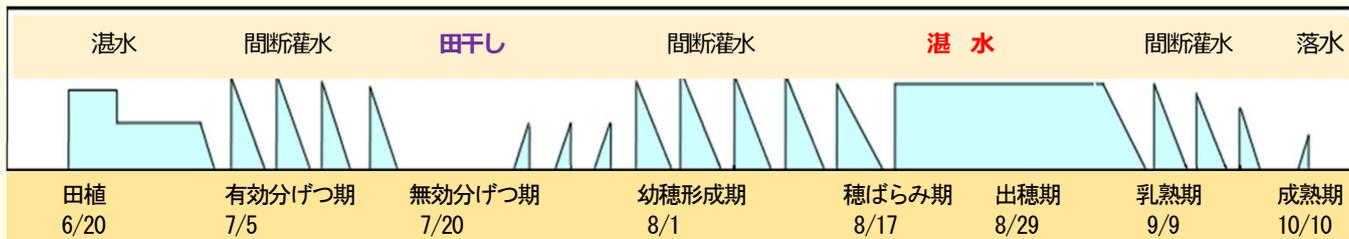
○ 中干し後の水管理

“浅水管理による間断灌水”が基本

○ 穂ばらみ期から出穂・開花期の水管理

「イネの一生の中で最も水を必要とする時期」であることから**湛水管理**とする。

<水管理イメージ図>



2 斑点米対策

令和5年産「おいでまい」の1等米比率は綾坂地区81.1%、仲多度地区94.5%でした。

落等要因としては、充実度、斑点米、異種穀粒等があり、特に**綾坂地区は斑点米の割合が非常に高い傾向にありました**(綾坂地区46.1% 仲多度地区18.1%)。

斑点米カメムシ類は、出穂期頃に飛来して繁殖するため、**出穂前後の防除が重要**です。

また、**出穂10日前までに**斑点米カメムシ類の住処となる**畦畔等の草刈**を行い、**必須防除を徹底**して斑点米カメムシ類の被害防止に努めましょう。

○ 斑点米カメムシ類



ミナミアオカメムシ



ホソハリカメムシ



アカスジカスミカメ



クモヘリカメムシ



イネカメムシ

3 適期・適正な病虫害防除

●必須防除の体系(「2024年産おいでまい栽培のしおり(綾坂版)」参照)

①【箱施用剤】ビルダ-フェルテラチェスGT粒剤

②【粒剤体系】

出穂20~15日前

ゴウケツンスター粒剤 又は ワイドパンソ豆つぶ

(いもち病、紋枯病、カメムシ類、ウカ類)

出穂10~20日後

スタークル粒剤 又は スタークル豆つぶ

(カメムシ類、ウカ類 ツマゲロコバイ)

又は

【液剤体系】

8月15日頃

バリダシ液剤5

(紋枯病)

出穂3日前~直前

(混用)ダブルカットバリダフロアブル

+ スタークル顆粒水溶剤

(いもち病、紋枯病、カメムシ類、ウカ類、ツマゲロコバイ)

出穂10~20日後

スタークル顆粒水溶剤

(カメムシ類、ウカ類、ツマゲロコバイ)

●必須防除の考え方

◆育苗箱防除

箱施用剤は、いもち病に対し長期残効があり、葉いもちの上位伸展を抑制する。

◆本田防除

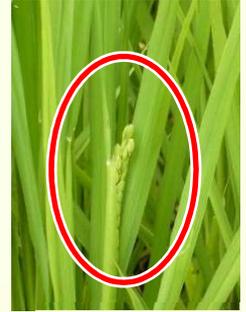
出穂前の防除により、紋枯病の上位伸展や穂いもち、斑点米カメムシ類、ウンカ類の被害を抑える。また、斑点米カメムシ類による斑点米の発生、ウンカ類の被害を防ぐため、出穂後にも防除を実施する。

●いもち病の確認防除

- ・上位葉に病斑が見られる場合は、穂にも被害が広がり収量を大きく減らす危険があります。進行型病斑を確認したら、確認防除を実施しましょう。



いもち病 進行型病斑



出穂する穂

●「出穂」「出穂期」とは

病害虫防除や成熟期判定の基準となるため、確認方法を把握しておきましょう。

- ◆「出穂」とは……穂先が葉鞘から現れたとき(右写真参照)
- ◆「出穂期」とは……全茎数の4～5割が出穂したとき

4 病害虫の発生状況

県下全域で水稻（短期、普通期）に対して **斑点米カメムシ類の多発生**が予想されており、香川県病害虫防除所から「病害虫発生予察注意報」が発表されています。

病害虫の発生が確認される場合には、必須防除に加えて確認防除も行いましょう。

病害虫名	予想発生量	病害虫名	予想発生量
葉いもち・穂いもち	並	紋枯病	並
ウンカ類	並	斑点米カメムシ類	多
ツマグロヨコバイ	やや多		

令和6年8月6日香川県病害虫防除所発表

5 おいでまい作況情報

田植40日後の生育状況は、過去5か年平均に比べて草丈はやや長く、茎数は少なくなっています。

令和6年度水稻作況試験生育調査結果(普通期8月7日現在)：農業試験場

区分	田植日	30日後(7/20)		40日後(7/30)		幼穂形成始期	出穂期
		草丈(cm)	茎数(本/m ²)	草丈(cm)	茎数(本/m ²)		
R6	6/20	52.5	497	67.7	654	8/7	—
過去5か年平均	6/20	49.6	605	69.8	711	8/6	8/27
差(比)		2.9	▲18%	2.1	▲8%	1	

注) ▲は、短い、少ないことを示す。

★マイスターチェック★

- 水稻の生育期間中、最も水を必要とする穂ばらみ期～出穂・開花期にかけて、**湛水管理**ができていますか？
- 斑点米カメムシ類の被害軽減のため、**出穂10日前までに畦畔等の草刈**を行っていますか？
必須防除を適期に行っていますか？



熱中症に注意して農作業に取り組みましょう！